

1がっ

クラスだよ

しいの実み たんぽぽぐみ みずぐみ



2025. 1. えんまちまがわりんぽん



子どもたちの元気な声や挨拶と共に、新しい年がスタートしました。室内あそびを楽しんだり、散歩先では寒さに負けず友だちや保育者と追いかちこをするなど天気いっぱいの子どもたちです。体調管理などに気を配りながら天気に過ごしていきたいと思います。

しいのみ組

年末年始のお休み明けも天気に登園していた子どもたち。描画や園庭あそび、他クラスとの交流をして今月も楽しく過ごしました。

描画では、始めに絵の具の感触に慣れるため手につけて手型をしてあそびました。その後クレヨンやマジックペンを使ったり、先日初めて筆を使って絵を描きました。画用紙に色がつき、嬉しそうな笑顔を見せる子どもや、最初は筆の動かしかたが分からなかった子どもも徐々に分かるようになり、少しだけ横に動かすことばできました。また画用紙いっぱいにかたくのびのび描いたり、手首を使い筆を左右に倒しながら楽しそうに描く子どもの様子もありました。

園庭では、カゴから自分の好きなおもちゃを出し、スコップを使って上手に砂を容器に入れてみたり、保育者が型抜きをしているのを見真似してみたり、一緒にクッキーをつくり手拍子しながら歌ったりと一人あそびだけでなく、友だちや保育者との関わりも楽しみなあそび場が増えてきています。

“自分で”!! やってみよう☆

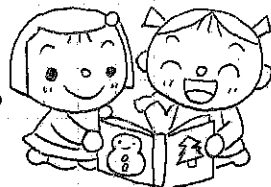
子どもたちの中に園での1日の流れが定着してきて、色々な場面で自ら動くことができるようになってきています。最近では簡単な衣服(ズボン)やオムツの着脱に挑戦中です。つい手助けをしてしまいがちですが、声かけをしながら見守り待つことを大切に適度に手助けをしながら、子ども一人ひとりが自分でできた!! という自信を次の意欲につなげていけたら良いなと思っています。

ぜひ、お家からもお忙しいとは思いますが、子どもが自分でできるよう見守っていただけると嬉しいです。



たんぽぽぐみ

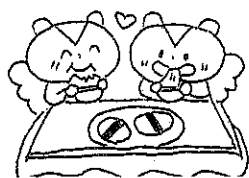
友だちと一緒に遊ぶことが大好きな子どもたちです。日頃の遊びの中でも、自然と同じおもちゃで遊んだり、言葉のやりとりが増えてきたなあと感じます。言葉のやりとりで言うと、散歩から帰ってきた時に「さんぽたのしかったねー」「ねー」というやりとりや手洗いの石けんをつける時に保育者が「一回だけねー」と声をかけているのを聞いて「いかいたけよー」と友だちに同じように伝えていることがあります。また行動の良し悪しが難しいので、とっさに押しまったり、叩いてしまうこともあります。保育者が代弁をしながら一緒に伝えて、聞いてもらった、うまく言うことが出来た、喜びを感じたり、もう少し待ってみたりするところを経験しているところです。子どもたちなりに考え、思わず笑ってしまうこともあり、みんなで楽しく過ごしています。



指先あそび

室内にあるパズルは最初は6ピースほどの簡単なものから、今では少し多い20ピースほどのものまで、繰り返し遊びながら、だんだん出来るようになってきました。一人でしたり、友だちと一緒にしたりしながらピースの形をよく観察して集中してやっています。

パズルやシール遊び、ホッتون落としなどつまむ、持つ、入れる、ちぎるまた生活の中では口拭きタオルで口を拭くなど、日常の中には手を使うことが多くあります。指先を使うことで脳を刺激し、運動面や言語面の発達も促していくと言われています。大人には簡単に見えても、子どもたちにすれば、まだ難しいこともあります。生活の中で、子どもたちが出来ることから、少しずつ進めていきたいと思っています。



～おにぎり作り～ みずぐみ

いつもはお茶碗に入っている白ご飯をラップの上に乗せ、ラップを見て「これはなに？」と興味津々。おにぎりを作ることを伝えてご飯を置いていこうとすると早くも手を伸ばしてしまいがちになっていました。初めて作ったのでまずは「①ラップの端と端を合わせてまめる → ②クルクルとねじる → ③握る」の動作を伝えながら一緒に作りました。手に米粒がつくやラップから、はみ出してしまうこともありましたが何れも「楽しい」の気持ちから大きい子どもたちは笑顔で「見て見て！こはおにぎりできた！」とお喋りが止まりませんでした。粘土でよく作るお団子のようはまん丸おにぎり○や手の平にカマこめてハイパーのようは平たいおにぎり○、握り方や形、おんは違、て子どもにちらしいおにぎりか？出来上がりまでに！“自分で作った”というニエが何れも嬉しかったようで「もうはなはた」「おわりある？」とまじまじに食べる子どもたちでした。ぜひ、お家でも一緒に作ってあげてくださいね！

2～3歳頃になると「大人と一緒にがいい」という思いから、箸に興味を持ち始めるようになります。いきなり箸は難しいからと、補助付き箸の使用を勧める方もおられるかと思いますが、しかし、補助付き箸が使えようにはなつてからと、普通の箸へ移行してもうまく使えはいいケースも多いようです。

補助付き箸は指が固定されているので、指の力が弱くても使うことができます。そのため間違つて癖がつきやすく、色々な動きに対応することができません。

今の時期はスプーンを正しく持ち、一口量をすくって食べる経験を積むことを大切にしています。

正しく箸を使うためには、遊びや生活の中で自然と力がつくようにすることが大切です。子どもたちが楽しみながら力を付けていけるよう沢山遊んでいきたいと思っています。